

令和元・2年度 第2回高崎市公民館運営審議会 会議録

開催日時 令和元年9月25日(水) 午後1時30分から3時15分

開催場所 高崎市中川公民館 講義室

議題 中川公民館の取り組みについて

公開・非公開区分 公開

出席委員 (15人)

相模透委員 ・ 吉井良肇委員 ・ 瀬間宏一郎委員 ・ 串田昭光委員
小屋美香委員 ・ 中島輝男委員 ・ 山崎紫生委員 ・ 植原孝行委員
戸塚光久委員 ・ 山口堅二委員 ・ 中司恵理委員 ・ 岡田文男委員
新利恵子委員 ・ 柴山益子委員 ・ 三澤憲一委員

欠席委員 (5人)

綾部園子委員 ・ 飯野茂委員 ・ 森周子委員 ・ 小見勝栄委員
丸茂ひろみ委員

成立 高崎市公民館運営審議会規則 第4条第2項による

事務局出席者

小峰好恵中央公民館長・土谷真由美社会教育課長・平井節雄中川公民館長
齋藤崇夫教育担当係長・錦部光樹次長・塚越康弘次長・原田輝章次長
信澤進次長・角田潤次長・武政文隆次長・江積利雄次長・木村智美主査
竹内芳徳主任主事・菅野典子行政嘱託

傍聴定員 5人

傍聴者数 0人

所管部課名 教育部高崎市中央公民館

令和元・2年度 第1回高崎市公民館運営審議会 議事録

議事

1 中川公民館の取り組みについて

会長： 議事に入らせていただきます。今日は最初に中川公民館の平井館長さん、竹内主事さんに中川公民館の取り組みについてご説明いただきまして、委員の皆様からご質問していただくという予定です。

その後、館内を視察させていただきます。視察が終りましたら、またこの場に戻りまして、視察したことを踏まえて更に質問などがございましたら出していただき、高崎市の地区公民館の施設や活動についての認識を持っていただいて、尚かつ話し合ってください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、中川公民館の取り組みについてご説明いただきます。よろしくお願いいたします。

中川公民館長： 皆さん、こんにちは。当館の館長をさせていただきます、平井と申します。本日は視察に来ていただきありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、スライドを見ていただきながら説明させていただきます。

こちらは、中川公民館の概要です。

中川校区の位置ですが、県庁と市役所のちょうど中間あたりになります。東側は新高尾校区、南は浜尻校区、北は旧群馬町の桜山校区に接しています。

校区には6つの町内会があります。南北には、国道17号と高渋バイパスが走っています。こちらが井野駅で、周辺は住宅街です。西側は大八木工業団地があり、この部分は、水田が広がっています。

校区人口は約1万人です。6町内会とも人口が1,000人を超えていますので、バランスの取れた校区と言えらると思います。笑顔で写っているのが、6町内会の区長さん方です。

ここで写真をご覧ください。公民館から近い西側の水田です。私も米を作っていますが、広い田んぼがたくさん残っています。伝統行事が盛んな地域で、どんど焼きも、まだ2つの町内会で行われています。

こちらは私の地元の正観寺の夏祭りです。後ほどスライドでもご覧いただきますが、季節ごとに、様々な行事が行われています。珍しいところでは、育成会によるマスのつかみ取り大会です。育成会活動も活発で、平成29年度には、市の大会でポートボールが優勝、ソフトボールが準優勝しています。

こちらは地区運動会です。クライマックスのリレーのひとつです。800人

以上が集まる中川最大のイベントです。

続いて、伝統芸能、獅子舞です。校区には2団体ございます。こちらは大八木町の保存会です。歴史は古く、江戸時代から続いている、地域が誇る伝統芸能です。

こちらは小八木町の獅子舞です。小学校の北側の鏡宮神社で奉納しています。後ほどご紹介いたしますが、保存会の協力で、獅子舞体験教室を開いています。

際立った、観光スポットや歴史的な遺産、何か名物があるわけではないのですが、中川校区は、住民同士の結び付きの強さが誇れる地域だと思っております。

次に、施設の概要です。設置年度は、昭和33年。当時は中川小のすぐ北側にありましたが、平成元年に、この場所に移転しました。ですから移転してからちょうど30歳。市内45公民館で新しい順にしますと、まだ12番目という若手になります。使用できる部屋は、こちらの4部屋です。後でぜひご見学ください。1階は料理実習室です。料理以外にも、寄せ植えや手芸などでも利用していただいております。もっとも稼働率が高いのが講義室です。平日は定期サークルでほぼ埋まっている状態です。公民館の講座や行事を開催するときは、サークルの方に事前にお話して開けてもらっています。和室は15畳あります。絵本の読み聞かせで使ったり、囲碁や舞踊のサークルが使用したりしております。最後が図書室です。水曜日の午後2時半からボランティアさんによる貸し出しが行われております。それ以外の時間帯は、サークル室として使ったり、PTAや育成会が会議で使ったりしています。

開館時間は、午前9時から午後9時までです。休館日は、祝日、お盆と年末年始。そして、使用料は無料です。

余談ですが、中川公民館の強みは、駐車場が広いことです。30台以上停められるので、利用する皆さんから大変喜ばれています。その分、雪が降ると本当に大変でして、竹内主事とふたり汗だくになって雪かきをしております。

続きまして職員体制です。まず、館長は、校区内に住んでいることが要件となります。地域の代表者が集まる公民館運営推進委員会で選ばれます。非常勤なので、詳細な勤務時間などの決まりはありません。私の場合は、週3日は出勤するようにしております。任期は1年です。運営推進委員会で選ばれば、75歳まで勤務できるそうです。

次に、公民館主事でございます。竹内主事は中川公民館5年目、私とは一緒に仕事をするのが3年目です。業務全般を担当しています。

続いて管理人です。家族住み込みで、館内の清掃、夜間・土日の戸締りなどをしてくれます。今は管理人が不在ですので、今日は管理人室をご覧いただくことができますと思います。

そして最後ですが、臨時職員の内藤さんです。もう20年以上勤務している大ベテランで、月に3日、人手が必要なときに勤務していただいております。

続いて、利用状況です。資料にも団体一覧を添付しましたが、スポーツ、音楽、趣味など30団体335人が定期的に活動しています。また、平成30年度実績として、施設利用の貸館だけとってみても、延べ1,473回、16,252人に利用していただきました。前年度よりも約10%増加しております。増加理由としては、新しいサークルが2つ増えたことです。一つめが、あしこし体操クラブ、こちらは公民館の主催講座を受けた参加者の有志が立ち上げました。もうひとつが、吹き矢クラブです。こちらと同じで、講座終了後に発足して、中川校区の住民を中心に毎週活動しています。

参考までに、施設利用者を1日あたりに換算してみますと、平均4.3団体、47.9人が来館している計算になります。ちなみに、貸館人数は、市内地区公民館44館中、9番目という状況で、利用率は高い方だと思っております。

続いて、中川公民館の運営推進委員会についてです。委員数は地域の区長さんや各種団体の代表の方、小中学校の校長先生など30人です。任期は2年。地元の皆さんから、運営に関して様々な意見をいただき、ご意見を公民館事業に反映させていただいております。

ここで少しだけ紹介させていただきます。レジュメの一番下にも掲載しておりますが、平成29年1月に、全国の公民館報コンクールで、応募総数154館から、中川公民館が優良賞を受賞しました。地域の問題をこまめに取り上げている点やそこに写る人のいきいきとした表情が評価されました。

それからわずか2ヵ月後に、優良公民館として県内からは2館、文部科学大臣表彰をいただきました。この後、ご説明させていただく、防災、伝統芸能、地域情報の、住民への発信の取組みが評価されたものです。

以上が、公民館の概要です。次に、平成30年度の事業実施状況につきまして、竹内主事にバトンタッチさせていただきます。

中川公民館主事： お世話になります。中川公民館主事の竹内と申します。本日は、このような機会をいただき、大変ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、レジュメの「2」と「3」につきましては、私の方からご説明させていただきます。用意させていただいたスライドがかなりの枚数がございます。説明も駆け足になってしまっていて、お聞き苦しい点もあるかと思いますが、どうぞお付き合いください。それでは、2、平成30年度の事業実施状況についてご説明させていただきます。まずに、5月16日に開催しました中川公民館運営推進委員会においてスライドで事業を振り返ったものがございますので、お時間10分ほどこちらをご覧ください。

～スライド上映～

ありがとうございました。中川公民館の雰囲気やイメージなどをつかんでいただけたかと思います。レジュメに戻りまして、3番になります。

中川公民館で特に力を入れております重点事業を3つほど、ご紹介させていただきます。防災関係、獅子舞、公民館だよりの3つでございます。こちらもスライドがかなりのボリュームがございます、ちょっと急いだご紹介となりますが、お付き合いください。

地域ぐるみの防災講座、この講座名での開催は、平成27年度からになります。当時、中川地区で自主防災組織があるのは、2町内会だけでした。自主防災組織を何とか増やせないか、そのきっかけを作ろうと開催したのが、地域ぐるみの防災講座です。こちらはその時の公民館だよりで、「震災から5年、地域防災を見つめ直す」と題しまして、初年度は、防災講話、災害図上訓練、避難所運営ゲームという、3回シリーズで、参加者を募集しました。

講座を開くにあたって、心掛けたこと、事業ポイントをご紹介いたします。1つ目は区長会との連携です。これがなければ、講座は開けなかったと思います。というのも、公民館だよりを見て、防災にご関心を持って申し込んでくれた方はおひとりだけでしたので、区長会へ事前をお願いして本当によかったです。区長会からの呼びかけで「公民館には、いつも世話になっているからなあ」ということで、なんと3日間で、延べ123人の方が参加してくれました。翌年度以降も区長会の協力で町内の役員さんだけでなく、民生委員さんや防犯委員さんなど、ほぼ同じ顔ぶれの皆さんが毎年参加してくださっています。この4年間で合計10回開催しまして、延べ418人にお集まりいただきました。講義の内容自体も、その年の取り組み状況に合わせて、年々ステップアップしてもらっています。

ポイントの2つ目は講師の防災士の赤羽さんです。赤羽さんはこの4年間ずっとおいでいただいております、皆さんともすっかり顔なじみになってきて、ダメなところをズバツと指摘してくれます。赤羽さんは高齢者福祉の分野でも活躍されており、「防災」と「福祉」は車の両輪であり、災害時に支援が必要な人は、日常的な支援、見守りや声かけが必要なので、防災力を強化するということは、「地域力」を高めることにつながると訴えられております。福祉的な視点から防災の指導ができる方は、そうはいらっしゃらないと思いますので、とてもありがたい存在でございます。また初回の講義では、こんなことを投げかけていました。「安全神話は大きな間違いで、行政自身も被災者なんです。だから、3日間は自力で頑張る必要がある。そのための備えをきちんと身に付けること。自分たちの地域は自分たちで守る。」と毎回、本当に説得力のあるお話をいただいております。平成27年度の2回目は避難所の運営をゲーム感覚で体験してもらいました。

そしてこちらは、災害図上訓練の様子です。町内会ごとに、危険箇所、避難経路を話し合い、発表もしてもらっています。参加者にとってグループワークはか

なり新鮮なようで、毎回とても盛り上がっております。

ポイント3つ目は開催時期です。タイトルどおり、毎年3月11日前後に開催しています。ちょうど東日本大震災のあった3月11日に講座があった時は午後2時46分に全員で黙祷しました。それもあってか、取材が入ることもありまして、テレビカメラが入ったこともありまして。28年度の2年目では、内容もステップアップしまして、避難所開設訓練を実施しました。避難所の狭さを体験してもらったり、竹と毛布の担架を作ったりしました。

ポイント4つ目は公民館だよりを使った情報発信です。先行する町内会の様子を頻繁に取り上げました。こんな風にインタビュー式に紹介すると、皆さん本当に喜んでくださいます。一方で、他の区長さんは、少しプレッシャーだったようで、いい意味での競走を促せたのかなと思います。公民館だよりには「講座に参加した区長さんに聞きました」ということで、講座直後で意識が高まっている時の感想をそのまま掲載しました。こちらは当時区長さんだった平井現館長ですが、「自主防災組織の設置に生かしたい」と力強く話していらっしやいました。こうした想いが目に見える形となって、平成29年9月に全6町内会に自主防災組織が立ち上がりました。

これは、区長さん皆さんのご苦勞あつてのことですが、中川が誇る、地域の結束力の強さとも言えると感じました。設置後も、非常に活動が活発でございまして、井野町3は、早速赤羽さんに来てもらい、井野町5は、子ども達と避難所に向かう訓練、小八木町1は中川公民館を利用して炊き出し訓練をしています。また小八木町2は、育成会と連携して、防災訓練を行っております。

ご覧のとおり、十分なくらい、活発に取り組んでいただいております。それでしたらもう防災講座をやらなくてよいのではないかと、という話があるかもしれませんが、むしろ逆で、ここからが正念場だと感じております。

今後の目標としては、町内会単位から校区全体として避難所のルール作りや指定避難所の初動体制の確立です。訓練にしる、災害時の対応にしる、町内会ごとに完結してしまっているのが現状でして、例えば各町内会から誰が中川小学校の体育館に駆け付けるのか、まだしっかり決まっていません。それを踏まえながら取り組んだこととして、29年度には避難所のルール作りを体験していただきました。体育館の配置図や1日の流れ、役割について検討していただいて、3年目にしようやく話し合いが始まったところでございます。

4年目となる今年の講座ではタイムラインとあって、災害が見込まれる3日前からの動きを参加者に時系列で模造紙にまとめてもらいました。この模造紙にも「中川小学校に役員を派遣する」と書いてあります。このように少しずつですが、校区全体での意識が芽生えてきました。

実際、まだまだこれからですけれども、今、防災士の赤羽さんと話していることがあります。それは、地元の防災士さんとネットワークを作れないかというこ

とです。防災講座以降、中川校区でも防災士の資格を取る方が出てきまして、現在地元にも6人いらっしゃいます。その中に強力なキーパソン（鍵になる人）がいらっしゃいまして、1回目から毎回参加してくれている高橋さんという正観寺の区長代理さんです。色々なことで活躍されている方で、3年前に防災士の資格を取られ今では赤羽さんと一緒に、県内各地を防災のために飛び回っていらっしゃいます。もちろん、地元の正観寺でも、防災士の知識を生かして活躍されていますし、さらに、1年前には、群馬県の防災講演で事例発表をされたほどです。中川公民館とすれば、この高橋さんのような貴重な地域人材、防災士の皆さんが活躍できるように、つなげていくことで校区全体の体制づくりに向けて、しっかりお手伝いできればと考えて今取り組んでいるところでございます。駆け足になりましたが、以上が、防災活動の取り組みのご紹介でした。

それでは、重点事業の2つ目「獅子舞・笛体験教室」についてご紹介させていただきます。こちらは、始めてからもう20年以上経過しました。歴代の館長さん、先輩主事のみなさんが、試行錯誤を重ねながら、積み上げてきた事業と言えます。平井館長から紹介がありましたが、大八木獅子舞と小八木獅子舞の2団体が中川校区にございます。いずれも中川校区が誇る地域の「宝」でございます。ただ、全国共通の課題として、担い手不足問題がございまして、中川校区も例外ではありません。この事業の概要ですが、大八木獅子舞と小八木獅子舞が、毎年交互に行っています。ターゲットは主に小学生で、住んでいる町内は問いません。会場や時間も、保存会の練習日に合わせて開いています。大八木は、毎週水曜日、夜7時半からで、仕事を終えた保存会の方が、指導に駆けつけてくれます。本番が近付くと、先輩の高校生たちも練習に来てくれます。指導者の方が手取り足取り本当に熱心に教えてくれますし、初めての子でも何回かやると形になってきます。実施時期は1月～3月にかけての6回程度、3月のお祭りに向けて頑張っています。

防災講座と同じように、この事業のポイントを4つご紹介させていただきます。まず1つ目は、中川小学校でのPRです。既に獅子舞をやっている子どもたちが、全校児童の前で披露します。生の獅子舞はかなり迫力があります。このスライドの年は、人数も増えてきまして、子ども14人で披露しました。新聞でもPRしてもらいました。今年は小八木獅子舞だったのですが、子どもたち8人が頑張ってくれました。最後はインタビュー形式で、子どもたちが自分の言葉で獅子舞の魅力を全校児童に語りかけてもらう形でPRをしております。

2つ目は、チラシの配布です。獅子舞を間近で見た子どもたちの熱が冷めないうちに全家庭に、チラシを配布しています。頑張っている子どもたちのことをひとりでも多くの保護者の方にも知ってもらえたら、という想いで作っています。

3つ目は、修了証の授与です。頑張ってくれた子どもたちに獅子舞を引き続きしてもらうためのサプライズ企画です。公民館だよりもインタビューも掲載しま

して、子ども達はもちろん、保護者の方にも非常に喜んでもらえました。

4つ目ですが、情報発信です。獅子舞のイベント情報を地域の皆さんへ周知したり、来られなかった方のためにも、当日の様子を紹介しています。29年度は、NHKのテレビカメラも入りまして、皆さんのテンションも上がりました。繰り返し発信することで、獅子舞への愛着や誇りを持ってもらい、地域全体で応援していくような雰囲気ができればと、色々な形で情報発信させていただいております。

最後に成果ですが、大八木獅子舞の子どもが当時3人だったところ、一気に8人増え、翌年の小八木は5人増やすことができました。ただ、資料にもありますが、29年度は1人、30年度は3人と、ちょっと伸び悩んでいるのが課題でございますが、保存会の会長さんからは、身に余る評価を公民館にいただくことができました。伝統芸能は、一度途切れると再起が難しいと、大八木・小八木の両会長ともおっしゃっています。

これからも、保存会と連携しながら伝統芸能をしっかりと、応援していきたいと考えております。

それでは重点事業の3つ目、これが最後になります。公民館だより「中川まちかど通信」です。本日も最新号を配布させていただきましたが、公民館だよりは、原則月2回、区長さん経由で各町内に回覧させていただいております。8月は夏祭り記事が多かったですが、現地に実際お邪魔して写真を撮り、お話を聞いて、文書を書いています。中川は特にイベントが多いので、大変じゃないと言えは嘘になりますが、最近では、館長にも取材に行ってもらったり、職員が伺えない時は主催者に写真を提供して貰って掲載することも増えてきました。資料として中川公民館だよりが、「月刊公民館」という雑誌に紹介された掲載記事を添付させていただきましたので、詳しくは、こちらをお読みいただければ幸いです。

お時間もだいぶ押してまいりましたので、最後に、公民館だよりについて、地域の皆さんからの声をご紹介します。子ども達は、どんなに小さく写っていても非常に喜んでくれます。中川小学校の正面玄関に公民館だよりを掲示くださるスペースがありまして、子ども達はそこを良く見ているようです。また、中川校区の住民の方々には日常会話のネタとして使っていただいているという話を伺っております。「紹介してくれて、ありがとう」「苦勞が報われるよ」。これは、地域の役員さんたちの声です。こういうお話を伺うと、応援したくなる気持ちが益々強くなる訳です。今まで、交通指導員さんや環境保健委員さん、女性防火クラブ、地元の食改推さん、最近では、長寿会さん、先ほどの獅子舞保存会さん、そして町内会の皆さん方を公民館だよりに紹介させていただいております。大変な面もありますが、何とか続けられているのは、公民館側の「応援させていただきたい」という気持ちが一番の源となっております。もう4年半になりますが、たくさんの地域の方々とお話させていただくことができました。今では、どこへお邪魔しても、地元の人間のように接して下さいますし、地域のいろいろ

ろなお話を教えていただいております。とりわけ防災講座の時は、皆さんたくさん来てくださいます。これはやはり、地域と公民館との信頼関係があつてこそだと思います。そして信頼関係を作るうえでも、平井館長の存在の大きさを感じております。いつでも地域と公民館の両方の立場で動いてくださり、調整が難しい場面でも常に矢面に立って対応してくれるのが平井館長です。これからも館長と二人三脚で、地域を応援する公民館を目指してまいりたいと思います。駆け足になってしまいましたが、発表は以上でございます。ご清聴いただきまして、ありがとうございました。

会長： ありがとうございます。

館長さんと主事さんに中川公民館の活動の様子をお聞かせいただきました。また映像が素晴らしく、分かりやすく見せていただきました。お二方の話について、何かご質問がありましたら出していただければと思います。いかがでしょうか。

そうしましたら、これから館内を見せていただき、視察後はこちらに戻りまして、施設や活動、事業等について皆様方からご意見、あるいはご質問を出していただく予定でございますので、よろしく願います。

～館内視察～

会長： 先ほど館長さんと主事さんから公民館の活動について、ご説明いただきましたが、皆様方からご意見、ご質問等ありましたらお出しいただければと思います。

学識経験者 A： 小学校が近くにあり、公民館の運営推進委員さんに学校の校長先生が入っているという状況で、公民館と学校との連絡が密のように思えますが、公民館と学校で連携して独自の取り組みを何かなさっていることがあれば教えてください。

中川公民館長： 先ほどご紹介させていただいた獅子舞の担い手育成の関係で「獅子舞・笛体験教室」を学校と連携して行っています。全生徒に集まっていたいただき、授業の前に小学校の体育館で行っています。

学識経験者 A： 教室というのは公民館でやっているのではないのですか。

中川公民館長： 獅子舞は中川公民館ではなく、大八木町と小八木町がやっているもので、毎年交互に中川小学校の体育館で披露しています。子ども達に見ていただいて、獅子舞に興味を持って保存活動に入ってもらうのが中川公民館としての目的です。

学識経験者 A： では、公民館は学校と地域の繋ぎの役目ということですか。

中川公民館長：　そうです。獅子舞稽古の会場は中川公民館ではありませんが、学校の校長先生と連携を取り教職員の皆様にご理解いただき、全児童に見てもらっています。

中川公民館主事：　獅子舞の体験教室自体は、各町内の町内公民館で行っておりまして、その体験教室を開くにあたっての獅子舞の披露は、全校生徒を前に実施するので小学校の体育館でさせていただいております。

学識経験者 A：　分かりました。それ以外でなにかやっていることがあるのか。あるいは学校と公民館が連携して事業をやる場合に何か課題がありますか。

中川公民館長：　もう1つが中学校の方ですが、毎年、中尾中学校の生徒に井野川の土手の清掃ボランティアをやっていただいております。

学識経験者 A：　もうひとつ、講座のことで詳しく教えてください。街探検というのがスクリーンに出たのですが、どういった講座なのか詳しく教えてください。

中川公民館主事：　街探検については、これは公民館事業ではなくて、小学校の2年生が生活科の授業の一環で公民館利用者と触れ合うということで、3日間に分けてクラス単位でこちらに来ていただくというのが「街探検」です。ここで活動しているサークルの方と世代間交流という形で触れ合っております。

会長：　他の方でご質問等がありますか。

公募委員 B：　資料の中で定期サークルの利用状況がありましたが、どこの公民館でもサークルのメンバーの高齢化で人数も段々減って、無くなっていくという状況にあるようですが、中川公民館の30のサークルを見ると約4割にあたる12～13のサークルが、会員が10人以下ということです。このまま行けば減っていくと思うのですが、定期サークルに対する中川公民館が行っている助成やサークルの人数を増やすための働きかけ等がありましたらご紹介いただければと思います。

会長：　全国的に公民館の利用者が高齢化する傾向にある。高齢化すると同時に段々利用サークルが減っていくということが予想される。そういう中で、中川公民館では現在のサークルにどんな支援を行って活性化を図っているかということですか。

公募委員 B：　はい。

中川公民館主事： サークルが高齢化している、それから2階に上がるのが大変という声は多く聞いております。そんな中で、中川公民館でのサークルへの支援ということでは、新しいサークルを立ち上げるための支援をさせていただいております。中川公民館で主催する講座を受けてくださった皆さんが講座終了後も続けたいという際に、新しいサークルを立ち上げるためにはどういったことが必要なのか、慣れるまではこちらで手取り足取り教えたりしながら、円滑にサークル化できるよう、皆さんの新しいニーズに応えられるように支援させていただいております。既存のサークルについては、人数が減ってきてもっと新しい人を募集したいというお話があれば、公民館だよりも皆さんが楽しく活動されている様子を掲載して、中川小校区内から参加者を集めるといったことで支援させていただいております。

中川公民館長： やはり中川公民館も、これから高齢化に伴いサークルが減ってゆくのではないかと予測しております。その中で館長と主事とで相談しながら、魅力ある講座を開いてそこからまた新しいサークルが発足できるよう、今後どんなものに取り組んで行けば良いか、公民館の課題として受け止めております。

会長： ありがとうございます。他にはどうですか。

ユネスコ協会選出委員： 公民館の連携ということで、中川と新高尾で連携して事業を行っているということを2、3年前に公民館だよりで見たのですが、その辺りの経緯について伺えればと思います。

中川公民館長： 先ほどお話しました、中尾中学校の井野川清掃ボランティアを中川、新高尾、浜尻の3地区合同で行っていて、3公民館で連携を取りながら取り組んでおります。

また、昔は浜尻校区がなく、浜尻小学校が新設されまして、中川地区から浜尻地区に分かれたわけですので、そういったことからこの辺りでは一番近い公民館なので浜尻公民館とは連携を取りながら行なっております。

会長： 公民館の事業といいますと、公民館が主催する講座、また地域活動として運動会や芸能祭などの諸集会、それから直接公民館の事業というわけではありませんが、地域の団体や活動と組んで、また組ませるようなコーディネートする仕事も多分にあります。先ほどご紹介されたのは、そのコーディネートの役割を果されたということだと思います。

他にご質問がありますか。

市議会選出委員： ライフアップ推進事業の中で地域ぐるみの防災講座というのを年3回行っているということで、それが特徴として挙げられておりましたが、どれくらいの方々がご参加いただいているのか、年齢層を教えてください。

中川公民館主事： 各町内会、各種団体からご参加していただいているような形であることと、開催日が金曜日の午後ということもありまして、平均年齢としては65歳くらいから75歳くらいの方が多く参加されています。男性だけでなく女性の方も、民生委員さんや女性防火クラブの方など多く参加されています。

市議会選出委員： 実際に防災が必要になった時に、動ける世代というのはどこかと言うとやはり現役世代であり、当然65歳以上の方が動けないということではなく防災のコミュニティを作る時には中心になるかもしれないけれども、実働となるのはおそらく40代、30代だと思います。公民館事業というと基本的には高齢者や子ども達が中心になるかと思いますが、いかに現役世代を取り入れていくかというのは課題だと思います。そういった方々が参加できるように土曜日や日曜日、または夜間の開催というのも少し視野に入れて今後活動していただくとより一層良いのではないかと思いますので、意見としてお聞きいただければと思います。

会長： ありがとうございます。

今のお話は、私たち審議会として公民館の運営について考える際の重要なご指摘だと思います。私たち自身の問題として受け止めたいと思います。審議会としてどう公民館のことを考えるかの重要なポイントだと思います。

他にはございますか。

市議会選出委員： 今の防災に関連することですが、自主防災組織が各地区で立ち上がったということですが、自主防災組織における公民館の立ち位置というか、今後どういう展開をしていくのか、何か展望みたいなことがあればお聞かせください。

中川公民館長： 6町内ごとに組織を組んでもらった中には、若い方もメンバーに入っております。また、町内公民館が一時避難所となっておりますので、町内の組織で出来る限り行なっていただくということになります。

今後は中川校区全体として、小学校とも連携を取りながら、体育館を使つての避難所運営を6町内会で相談して行なっていかなければと考えております。

市議会選出委員： 公民館とは関係ないのですが、中川の自主防災組織の役員はどういった方がメンバーになっていますか。区長さんが兼任するようところが地域では

多いので、中川は若い方もいらっしゃるとおっしゃっていましたが、そういう方も役員をしているかなど構成はご存知ですか。

中川公民館長： 私の地元の正観寺町ですけれども、区長が自主防災組織の会長になっていただいて、もちろん現役でお勤めしている方もメンバーに入っております。やはり高齢者だけでは運営もなかなかうまく行きません。救助するにも高齢の方だけでは救助できませんので、若い人にも入ってもらって組織を結成し、訓練しています。

市議会選出委員： うちの地域としては羨ましい限りです。

中川公民館長： この地区は区長がしっかりしておりますので、私も区長さん達と連携を取り、公民館で防災を発信しながら、各町内に浸透していくようにと考えております。

会長： 他にご意見、ご質問等ございますか。

倉渕地区選出委員： 伝統芸能の継承の問題でお伺いします。この地区では、獅子舞を2箇所ですべて活発にされているようですが、伝統芸能を承継したいけれども少子化で非常に人材不足が深刻化しているということがあると思います。保存会で運営はされていると思いますが、公民館として具体的にこういった部分で支援をしているということがあればお伺いさせていただきます。

会長： 伝統芸能は各保存会が自主的に行っている。しかし今後若い人たちに継承していくためにはどうしたら良いかという課題がある。については公民館として社会教育活動を通じて、どんなふうに関与の力になるような支援をしているかということでしょうか。先ほどのスライドを見せていただいた活動があるわけですが、もう少し踏み込んで、公民館としてどういう姿勢で取り組んでいるかお聞きしたいということでしょうか。

倉渕地区選出委員： はい。先ほどのスライドで色々な部分で支援をしているのはわかるのですが、今後もっと人材不足が深刻化していくことも考えられますので、公民館としてもある程度関わっていますので、今後も支援していく方向性があるのかどうかということをお伺いさせていただければと思います。

中川公民館主事： 伝統芸能支援については、例えば群馬県、あるいは高崎市においても補助等の支援を行っておりますし、公民館の方では人材育成・担い手確保のとこ

ろでバックアップさせていただいております。中川公民館では、公民館で体験教室を開催させていただいて、公民館だよりで募集して参加してもらっています。このスタイルで20年以上やらせていただいて、なんとか新しい子ども達にも体験教室に来ていただいている状況でございます。

中川校区には、大八木・小八木という町内会だけではなくて、井野町もあれば正観寺町もあります。町内会を越えて中川校区全体で獅子舞を応援していこうという雰囲気づくりというところでは公民館の役割は大きいのではないかと考えております。実際に井野町の児童が獅子をやったり、正観寺町の児童が笛をやったりしています。町内会単位ではなく校区全体で参加したい子は参加できるといったようなことは、公民館が人を繋げるきっかけづくりが出来る立場にあるからこそでは、と考えております。色々と課題はありますが、保存会の皆さんとしっかりと連携して取り組んでいきたいと考えております。

倉渕地区選出委員： ありがとうございます。

会長： お二人からの質問で自主防災組織と公民館の関係はどうなのか、それから獅子舞保存会の活動と公民館の関係はどうあったらよいか、という話がありました。

私たち審議会として公民館がどうあるべきかを考えていく時に、大変重要なご指摘をいただいたかなと思います。直接住民を対象とした事業ということだけでなく、既存の活動を地域全体の視野からとらえて何ができるのか、というようなことをお二方から出していただきました。

他に今日のご説明や館内視察で感じたことで何かご質問はありますか。よろしいでしょうか。

それでは、皆様方からご質問等がないようでしたら、時間になりますので議長の座を降ろさせていただきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

中川公民館の館長さん、主事さん、ありがとうございました。

報告・連絡事項

- 事務局 ・高崎市公民館研究集会について（第3回高崎市公民館運営審議会）
・前回審議会の会議録及び議事録について

閉会

事務局： それでは以上を持ちまして、第2回公民館運営審議会を閉会いたします。ありがとうございました。